

< 平成 25 年度管理運営の基本的な考え方と重点施策 >

公益財団法人宗像ユリックス

平成 25 年度事業計画

平成 25 年 4 月

公益財団法人宗像ユリックス

< 目 次 >

1. はじめに	1
2. 平成 25 年度管理運営の基本方針及び重点施策について	
(1) 基本方針	2
(2) 重点施策	
① 文化事業	3～6
② 本館運営（営業・貸館事業）	7～8
③ プラネタリウム運営	9～10
④ アクアドーム運営、健康レクリエーション事業	11～13
(3) 運営全般	
① 施設管理・安全管理	14
② 組織・運営体制	15
③ 財政運営	16

1. はじめに

平成 25 年度は、第二期指定管理の最終年度、仕上げの年であり、併せて「公益財団法人・宗像ユリックス」としての新たなスタートの年でもある。折しも、宗像ユリックスが立ちあがってから 25 周年を迎え、新市制移行 10 周年ともあいまって、その役割りと存在感をいっそうアピールすべき重要な局面にあるといえる。この 3 年間、公社スタッフの堅実かつ意欲的な業務遂行と市民・利用者みなさんのご指導・ご協力によって順調に業績を積み重ねることができたと確信する。この実績を力としてこれからの新たな局面に挑戦していくこととしたい。

公益財団法人・宗像ユリックスとして取り組む第一は「宗像市民および広域的な利用者のために、文化・芸術活動、スポーツ・健康づくり、生涯学習、まちづくりの拠点としての役割を担う」という宗像ユリックスのミッションを改めて確認し、広く内外に宣言することである。それと併せて、公益財団法人としての組織・機構や財務的な力量アップ、職員の意識改革と陣容の強化など、多くの課題に取り組むこととする。

今回の公益法人改革は、こうした“内なる改革”をともなつてこそ、本物の改革となるはずだからである。

第二は、市の文化・芸術振興施策の具体的展開としての「宗像市文化芸術のまちづくり 10 年ビジョン」の事業遂行である。同ビジョンは 3 年目に入るが、市内の小学校 4 年生全員に本物のコンサートを体験させる「芸術鑑賞モデル事業」が、すでに高い評価を得て定着しつつある。また、いきいき出前コンサートや日曜百円寄席の市内各地域への広がり、市民ギャラリーの活性化などにも成果が上がっており、芸術鑑賞機会の創出と市民文化のすそ野づくりが進んでいる。

既に掲げている「どこでも、だれでもユリックス」路線をさらに押し進めることに力を注ぎたい。そのためにも、秋の「音楽イベント」を軸にしながら宗像市との協働による今年の周年事業の着実な実施を目指すこととする。その場合にも市民と行政をつなぎ、市民と市民をつなぐという手法と手順を大切にしていきたい。

こうした取り組みの中で、いよいよ第三期指定管理の年を迎えることとなる。公益法人制度改革も宗像市文化行政との協働も、いずれも「その時」を展望しながらの取り組みであることはいままでのない。指定管理を勝ち取ることなしに、公益財団法人宗像ユリックスがその使命と役割りを担うことはできないからである。そのためあらゆる準備をしっかりと整えながら、着実に、かつ挑戦的に事業展開を図っていくこととする。

2. 平成 25 年度管理運営の基本方針及び重点施策について

(1) 基本方針

平成 25 年度は、第二期指定管理期間の最終年度であり、今後もこれまでの運営を踏まえながら、市民・利用者を主人公とした施設運営や芸術文化と市民文化を捉えた総合的な宗像文化の振興を図る。このことは、平成 22 年度に策定された「宗像市文化芸術のまちづくり 10 年ビジョン」の骨子をなすものである。

また、経営的志向に基づく効率的な管理運営を目指し、公社全職員と関係団体が一丸となって積極的に取り組む。

①宗像市文化行政施策との連携・協力

これまでの芸術文化に関するノウハウ・スキルを活かし、市の文化行政施策への積極的な連携・協力を行う。市民ギャラリーの管理運営を通して、市所有絵画の企画展示や市民芸術家への支援を行う。また、これまで市が主催してきた文化事業の運營業務を共催で行う。

②各コミュニティ運営協議会、各種団体、教育機関との連携など参画・協働の積極的な取り組み

市内各種文化団体や各種教育機関と協働で事業を行うことで、文化芸術活動の普及と振興を目指す。また、新たな客層の掘り起こしを行い将来の客層及び文化活動の賛同者の獲得を目指す。

③参加・育成型事業への重点シフト

これまでの参加・育成型事業を充実させ市民文化の振興と文化行政への寄与を行う。また、九州管楽合奏団によるクリニックやアウトリーチを充実させ、芸術文化と市民文化を捉えた「宗像文化」の振興に努める。

④積極的な営業展開による顧客満足度の向上

利用者ニーズに沿ったマーケティング戦略や様々な顧客サービスの導入を図り顧客満足度を向上させ、利用者増加と収支改善を図る。

今年度からスタートする公益財団法人として、スムーズな運営が出来るように職員一体となって業務に取り組む。

(2) 重点施策

①文化事業

第二期指定管理期間は第一期から取り組んできた、鑑賞型事業を中心とした事業展開から普及・参加・育成型事業重視へと事業の方向性の転換を積極的に推進してきた。具体的な例をあげると、平成23年度より、従来取り組んできたアウトリーチ活動のコンセプトを見直し、社会貢献プログラムとして位置付けると共に、「いきいき出前コンサート」という事業名称で新たにスタートさせた。幼稚園・保育所や福祉施設での活動が、既に地域へ浸透し始めている。

平成25年度はこの方向性を堅持するとともに、施設特性を活かした芝生広場での屋外コンサートを中心とした「音楽祭」を開催するなど、開館25周年記念事業を計画的に配置し、積極的な広報活動による「ユリックスブランド」の更なる浸透を図っていく。

また、「宗像市 文化芸術のまちづくり10年ビジョン」についても、宗像市と積極的な連携を行い、各重点プロジェクトに取り組み計画的に推進していく。

●開館25周年記念事業の実施による「ユリックスブランド」の更なる浸透

平成25年10月に「もっとむなかたが好きになる音楽祭」(仮称)を実施する。これは宗像市新市制10周年、宗像ユリックス開館25周年を記念し、宗像市との共催事業として行う。芝生広場特設ステージにおける九州交響楽団の演奏のほか、ハーモニーホールでのプロ、アマの演奏など多様な内容で、多くのお客様に生の演奏をお届けする。実施にあたっては、文化協会など多数の団体の協力を頂きながら、地域の人々の共感と参加を得ることで、公共ホールとしての役割を果たしていく。

その他の25周年記念事業と同様に、積極的な広報を行い「ユリックスブランド」の更なる浸透を目指す。

●参加型・育成(普及)型事業の継続と企画内容の充実

「いきいき出前コンサート」は、平成23年度に20ヵ所、平成24年度に19ヵ所で実施した。派遣先などより再演の依頼を多数いただいております。期待に応えるための体制づくりを急ぐ必要がある。

事業規模拡大に向けた体制づくりの課題として、以下の3点がある。

- ①アーティスト育成によるプログラム開発
- ②推進するためのパートナーの確保(派遣先・派遣元)
- ③財政基盤の確立(オフィシャルサポーター制度)

また、24年度に実験的に実施した「すくすくコンサート」は、未就園児をもつ母親に非常に好評であり、平成25年度は年4回実施するとともに、コミュニティセンターでも実験的に実施する。

●「宗像市文化芸術のまちづくり10年ビジョン」の取り組み

「宗像市文化芸術のまちづくり10年ビジョン」の中で、短期プロジェクト（25年度完成）の着実な進展を図る。

①文化芸術活動と鑑賞機会の確保（実施場所：コミュニティ）

・・・24年度より取り組み開始

②宗像ユリックスでの鑑賞機会の創出（対象：市内小学校4年生）

・・・23年度より取り組み開始

③コーディネーターの養成　・・・25年度取り組み開始

中期プロジェクト（27年度完成）についても、実施に向けた環境整備を行っていく。

④アマチュア文化芸術出前隊　⑤若手芸術家派遣制度

⑥ネットワーク形成の促進

●連携体制

宗像市・教育委員会・各コミュニティ運営協議会との連携を積極的に行うことで、事業効果をより高めていく。新たに「宗像市文化芸術のまちづくり10年ビジョン」の取り組みとして、コミュニティ・センターでの文化芸術の鑑賞機会の確保を行っていく。

●「ユリックス倶楽部」運営

平成24年度会員数は3,637人と過去最高となった。今後も、特典の拡充や勧誘強化などによって、更なる会員数の増加に取り組むと共に、積極的な情報提供による事業参加を図っていく。

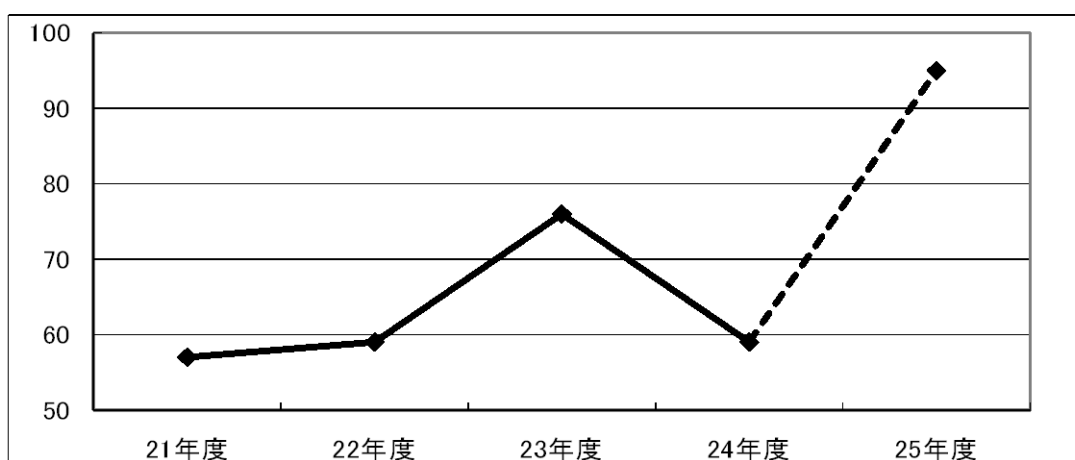
【 数値目標 】 ●事業本数 【95 本】

平成 25 年度は、共催事業を含め年間 95 本とする。

事業本数（ジャンル別）

※24 年度は見込値、25 年度は目標値

事業ジャンル	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
音楽(クラシック)	8	9	11	10	11
音楽(クラシック以外)	4	5	9	5	5
映画	18	13	16	13	12
演劇・古典芸能	13	9	10	8	4
美術	3	4	3	1	3
アウトリーチ	6	6	18	12	50
その他	5	13	9	10	10
合計	57	59	76	59	95



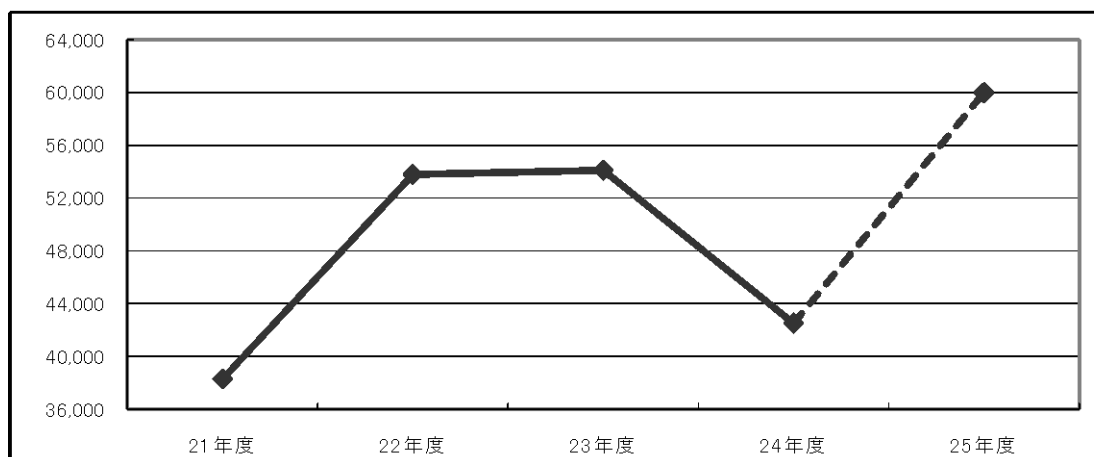
【 数値目標 】 ●入場者数 【60,000 人】

入場者数は、事業本数 95 本実施を前提条件として、55,000 人を目標とする。事業毎の目標を明確にし、達成に向けた施策の立案・実施を行う。

文化事業・入場者数の推移

24 年度は見込値、25 年度は目標値

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
入場者数	38,295	53,798	54,110	42,500	60,000
対前年比	87.2%	140.5%	100.6%	78.5%	141.2%
対前年人数	△ 5,622	15,503	312	△ 11,610	17,500



※22年度より、「むなかた芸術祭」など4事業が加わったため、入場者数が増加。

【 数値目標 】 ●ユリックス倶楽部会員数 【3,500人】

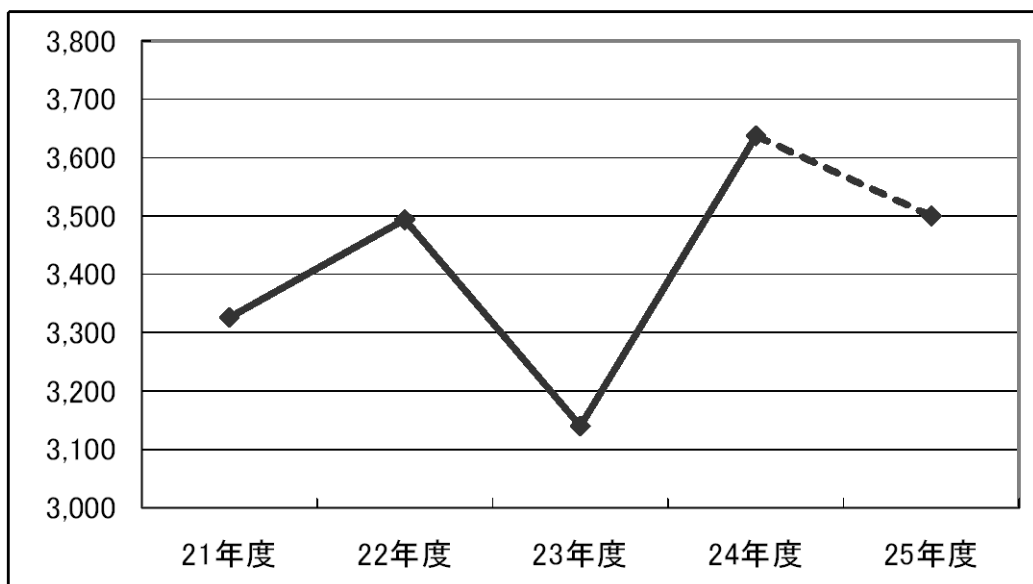
会員数目標を3,500人とし、以下の対策に取り組む。

- ① インフォメーション、電話でのチケット購入時の勧誘の徹底
- ② 館内告知の強化
- ③ 勧誘チラシの新聞折込（宗像市・福津市・宮若市）
- ④ 前年会員で非継続会員へのダイレクトメール（宗像市・福津市・宮若市）

「ユリックス倶楽部」会員数の推移

※25年度は目標値

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
会員数	3,326	3,494	3,140	3,637	3,500
対前年比	93.6%	105.1%	89.9%	115.8%	96.2%
対前年人数	△ 227	168	△ 354	497	△ 137



② 本館運営（営業・貸館事業）

ホールの利用者が少ない時期の新たな利用者を獲得していく。さらにイベントホールや展示室（ギャラリー）での企業主催展示会の利用を促すことで利用料金収入アップをはかる。

また、「スタジオ当日受付の半額割引」の継続、「舞台上で気軽にピアノレッスン」の利用推進など、利用者に定着したサービスを提供していくこと及び各種パンフレットへの広告掲載を適時に行ない、会議室とホールを合わせた施設稼働率のアップをはかる。

また、すでにお客様の支持をいただいているインフォメーション・貸館職員の接遇レベルをさらに向上させるため、新規採用職員の積極的な接遇研修への参加及びスキルアップのための研修参加をはかる。

また、施設予約・チケット予約システムの機器の更新を平成25年度中に実施するとともに、更新による窓口での対応時間の短縮をはかる。

さらに、北・南ゾーンの第三期指定管理者の指定を前提に、より一層、お客様の視点・立場に立った施設運営をはかるため、平成24年度に実施した全市対象の市民アンケートの結果をもとに、施設全体に対しての利用実態と満足度の把握と分析を行い、魅力ある施設サービスのアイデアに生かせるようすすめていく。

備品の定期的な更新や利用が多い備品の補充をしていくなど、利用環境を向上させ、施設利用者だけでなく来場者全体の満足度アップをはかる。

常に利用者の意見を大事にした施設運営とサービスの提案を継続させていき、「利用料金収入アップ」、「施設稼働率アップ」、「利用者満足度アップ」に取り組むことで施設利用者数の増加を目指す。

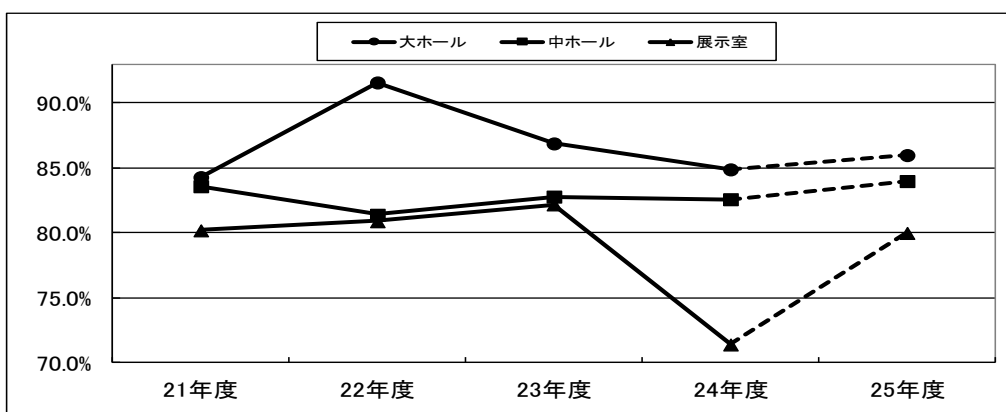
【 数値目標 】

●3大施設平均利用率 83.3% 【大ホール 86.0%、中ホール 84.0%、展示室 80.0%】

3大施設利用率の推移

※24年度は見込値、25年度は目標値

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
3大施設利用率	82.7%	84.6%	84.0%	79.6%	83.3%
大ホール	91.6%	86.9%	84.9%	86.0%	86.0%
中ホール	81.4%	82.8%	82.6%	84.0%	84.0%
展示室	80.9%	82.2%	71.4%	80.0%	80.0%



※利用率は、貸出可能日数のうち利用された日数の割合

●本館等利用者数 550,000人 / 本館等利用料金 60,000,000円

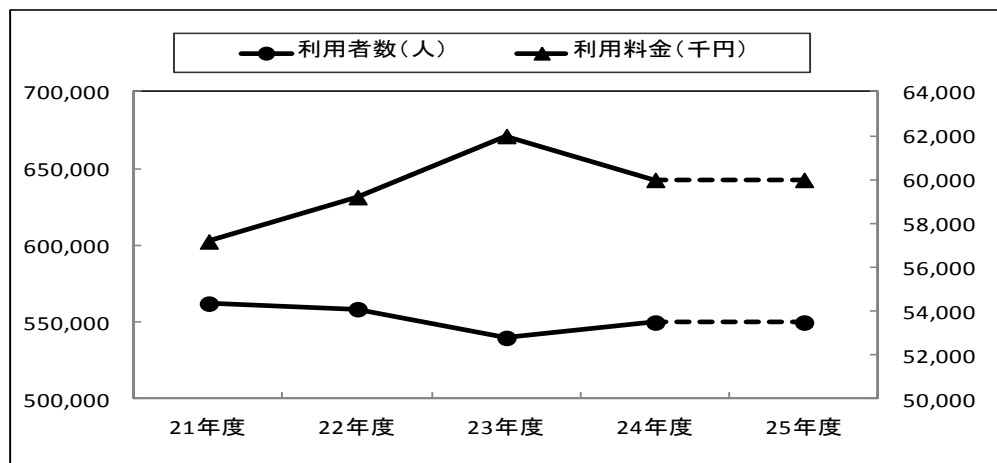
本館利用者数・利用料金の推移

※24年度は見込値、25年度は目標値

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
利用者数(人)	562,311	558,694	540,000	550,000	550,000
対前年比	100.5%	99.4%	96.7%	101.9%	100.0%
利用料金(千円)	57,196	59,215	62,000	60,000	60,000
対前年比	81.0%	103.5%	104.7%	96.8%	100.0%

※利用者数：本館一般施設、図書館の利用者と視察者の合計人数

※利用料金：本館一般施設の利用料金収入額



③ プラネタリウム運営

平成 24 年度は、年齢層に合わせた丁寧なプログラム作りと開館日数 26 日増などにより、リニューアル年度を除くと過去最高の入場者数となるとともに、団体利用件数は過去最高の件数を記録した。

平成 25 年度は、「地域に愛されるプラネタリウム」を目指すことを第一に事業を展開するとともに、プログラム制作と連動した積極的な広報活動を行い、入場者数 32,000 人を目指す。

●丁寧なプログラムづくりと生解説

観覧者のニーズを先取りするとともに、最新の天文・宇宙に関するテーマを積極的に取り上げる。おとな向けでは、「ハッブル宇宙望遠鏡の見た世界」、「土星の世界」、「私たちの銀河系」、「宇宙 138 億年～WMAPに見る宇宙の姿～」などを行う。こども向けでは「クレヨン」というキャラクターによるお絵描きやクイズなどが定着し、安定した鑑賞者数を確保できているが、前年と異なるショートストーリーを季節毎に切り替えるなど、工夫を加えていく。好評であるリラクセーションプログラムは、楽曲や映像を変化させるとともに、積極的な広報を行い新規顧客を獲得していく。

学校団体向けプログラムでは、小学校 3 年生・4 年生向けが好評である。一昨年、新たに制作した小学校 6 年生、中学校 3 年生向けについては、認知度を高めるとともに、小学校 3 年生・4 年生向け同様の宗像市よりの補助体制導入についての要請も行っていく。

また、すべてのプログラムでスタッフによるわかりやすい生解説を行い、天文・宇宙の魅力を伝えていく。

●ほしぞらスタッフ（ボランティア）活動等を通じた天文普及

現在 50 名を超える登録があり、観望会（ほしぞらウオッチング）や工作教室などのイベントの実施やクリスマスプログラムの制作などの活動を行っている。

特に、観望会は毎回プラネタリウム定員の 2 倍を超える来場者があり大変好評である。ほしぞらスタッフ活動は、特色のある取り組みであり、より積極的な取り組みができる様に活性化に努めていく。

●サイエンスカフェ

これまでに 7 回実施している。開催時期・内容を精査したうえで、今年度も 2 回実施する。

●広報活動

プログラム制作と連動した積極的な広報活動を行っていく。これまでも、ユリックス・サラダやDMでの告知を行っていたが、FM局などの媒体を使った告知を新たにスタートさせ、新規顧客の獲得を目指す。

また、丁寧なプログラムづくりとスタッフによる生解説で、リピーター率（現状

40%) とリピート回数 (年平均 2 回) の増加を図っていく。

【 数値目標 】 ●入場者数 【32,000 人】

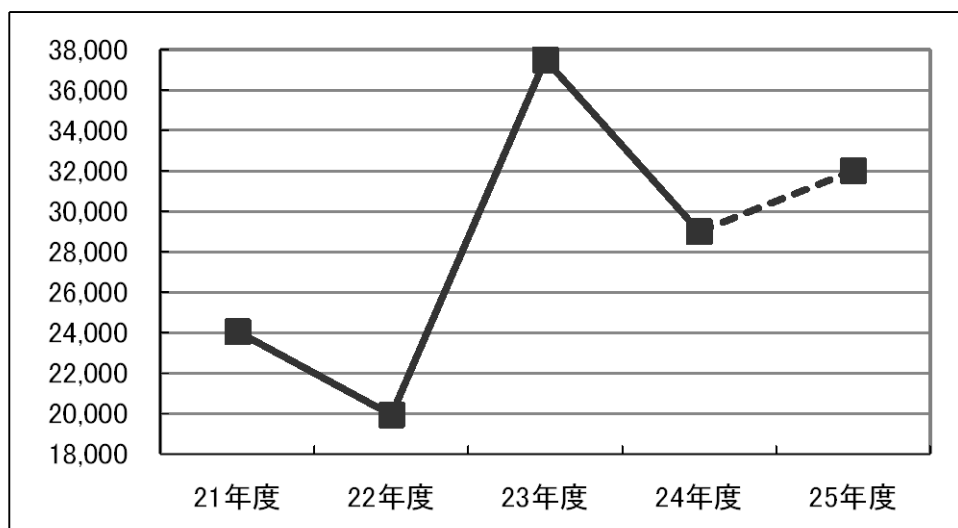
プラネタリウム入場者数の推移

※24 年度は見込値、25 年度は目標値

※平成 22 年度は改修工事による営業休止のため、実働 8 ヶ月での入場者見込数

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
入場者数	24,051	19,925	37,500	29,000	32,000
対前年比	96.7%	82.8%	188.2%	77.3%	110.3%
対前年人数	△ 817	△ 4,126	17,575	△ 8,500	3,000

※平成22年度は改修工事による営業休止のため、実稼動約8ヶ月間での入場者見



④ アクアドーム運営、健康レクリエーション事業

基本的な方向性は、次の3点である。

- ①健康づくり運動等の実践者の総合的健康の維持向上を目指す。
- ②地域に密着した健康づくり運動等が行える施設運営を行う。
- ③お客様の要望に対応し継続可能な生涯スポーツ等へ誘う。

●アクアドーム

健康づくり事業の中心的なプログラムであるウエルネスクラブは、平成22年9月より導入した「40歳未満の会員種別」が好評であり、平成24年度の「40歳未満の会員種別」の入会者が45名（25年1月現在）となった。ウエルネスクラブ全体においても273名となった。平成25年度もチラシ等による積極的な会員募集を行う。

平成25年度は、ジムのみを利用されている定期利用者に対して、ジム年間使用料金システムを企画・実施するなど総合的健康の維持向上を目指す施設の役割を果たし、地域の健康づくりの拠点としての存在感をより高めていく。

お客様の要望に対応するサービス向上施策として、以下のことを実施する。

- ①祝日スタジオレッスン
- ②夏季水中運動教室（7月～8月、スイミングスクール休止期間）
- ③平日ショートプログラムとしてストレッチを実施。

（対象：ウエルネスクラブ、ジム利用者）

また、新たな取り組みとして以下のことを実施する。

- ①宗像市健康づくり課と連携し「特定保健指導 動機付け支援」などを行う。
- ②好評である料理教室の拡充施策として、コミュニティセンターでの料理教室をスタートさせる。

地域に密着した健康づくり運動として、近年増加しているウォーキング愛好家を対象として宗像市健康づくり課作成のウォーキングマップを活用した参加無料のイベントを実施する。

また、昨年好評であったグラウンドゴルフ大会の実施や休日を利用した「アクアドーム施設」体験会の実施などにより、お客様を継続可能な生涯スポーツへ誘う。

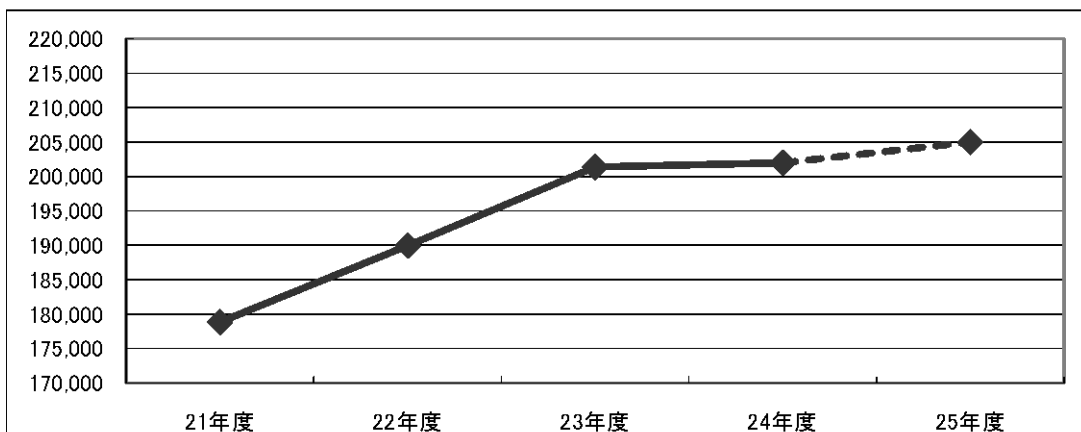
上記の取り組みに加え、主なプログラムであるウエルネスクラブ・スイミングスクールや新たに取るサービス向上施策を、広報紙や新聞折り込みチラシ（年4回計画）を通して周知を図っていく。

【 数値目標 】 ●入場者数 【205,000人】

アクアドーム入場者数の推移

※24年度は見込値、25年度は目標値

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
入場者数	178,892	189,953	201,388	202,000	205,000
対前年比	101.1%	106.2%	106.0%	100.3%	101.5%



●パットゴルフ

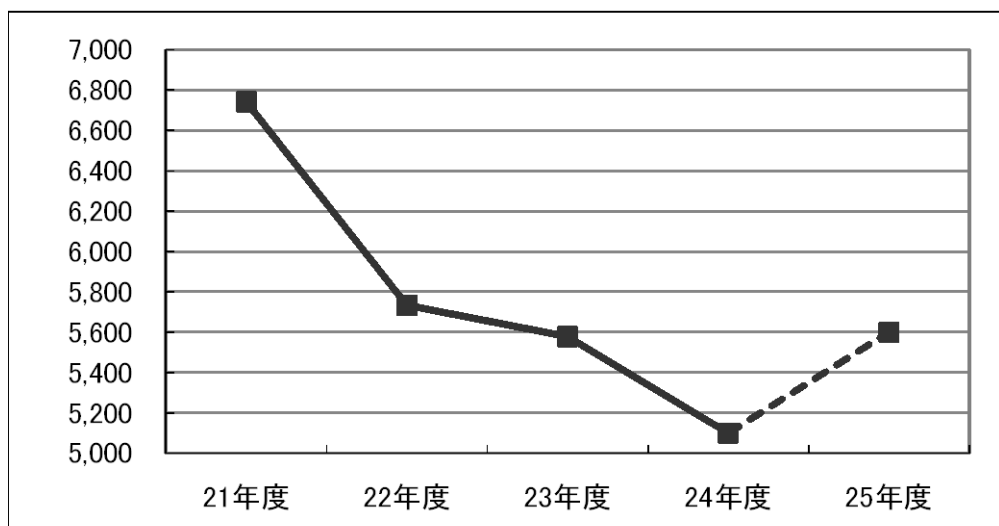
入場者数の減少傾向が続いている。平成25年度は、「コミュニティセンター対抗パットゴルフ大会」や「シニア大会」などを実施し、また、積極的な広報実施により入場者数7,500人を目指す。

【 数値目標 】 ●入場者数 【5,600人】

パットゴルフ場利用者数の推移

※24年度は見込値、25年度は目標値

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
入場者数	6,741	5,733	5,578	5,100	5,600
対前年比	107.4%	85.0%	97.3%	91.4%	109.8%
対前年人数	467	△1,008	△155	△478	500



●ゆ～ゆ～プール

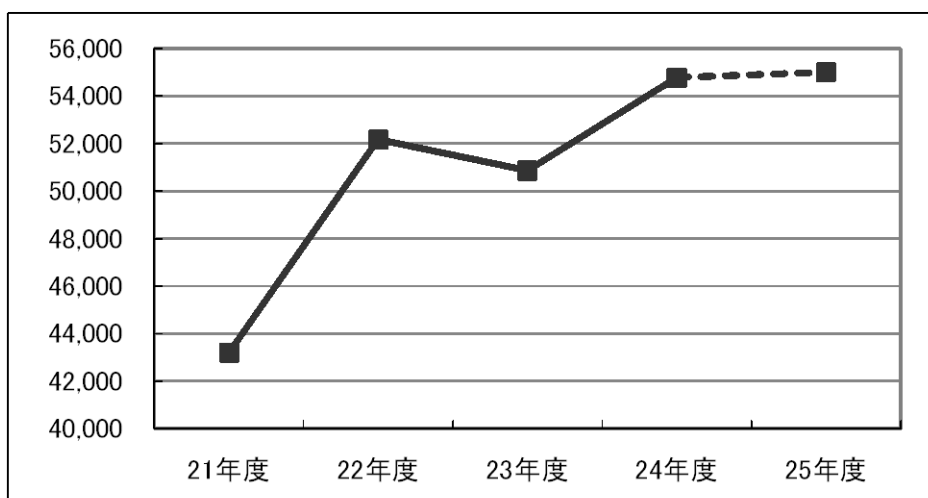
前年のスライダープール改修に続き、大規模な施設改修を行った。ファミリー層をターゲットとしたサービスを実施していく。

【 数値目標 】 ●入場者数【55,000人】

ゆ～ゆ～プール利用者数の推移

※24年度は見込値、25年度は目標値

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
入場者数	43,194	52,165	50,855	54,772	55,000
対前年比	99.4%	120.8%	97.5%	107.7%	100.4%
対前年人数	△ 282	8,971	△ 1,310	3,917	228



●テニスコート

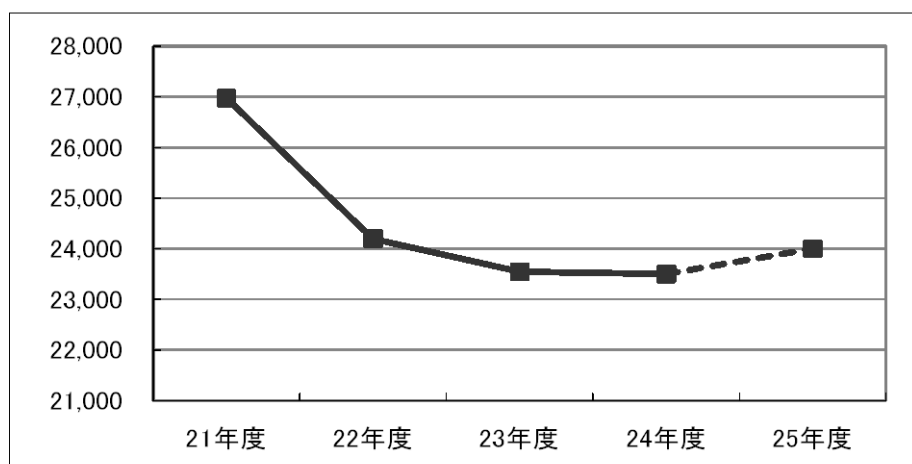
新サービスの導入検討や積極的な広報実施により、入場者数の減少傾向の歯止めとする。

【 数値目標 】 ●入場者数【24,000人】

テニスコート利用者数の推移

※24年度は見込値、25年度は目標値

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
入場者数	26,973	24,196	23,542	23,500	24,000
対前年比	101.3%	89.7%	97.3%	99.8%	102.1%
対前年人数	345	△ 2,777	△ 654	△ 42	500



(3) 運営全般

① 施設管理（ハード）・安全管理

宗像市が実施している保全工事について、平成 25 年度は本館外壁タイル改修工事とホワイエ屋根のトップライト改修やゆ〜ゆ〜プールの大テント張替工事を予定している。

平成 15 年度からスタートした第一期保全改修事業も昨年度で終わり、平成 25 年度から 10 ヶ年の第 2 期保全改修事業が始まる。

また、財団で行う修繕工事は館内外とも常に、情報網を張りお客様に快適な空間を提供するべく迅速な対応を行う。

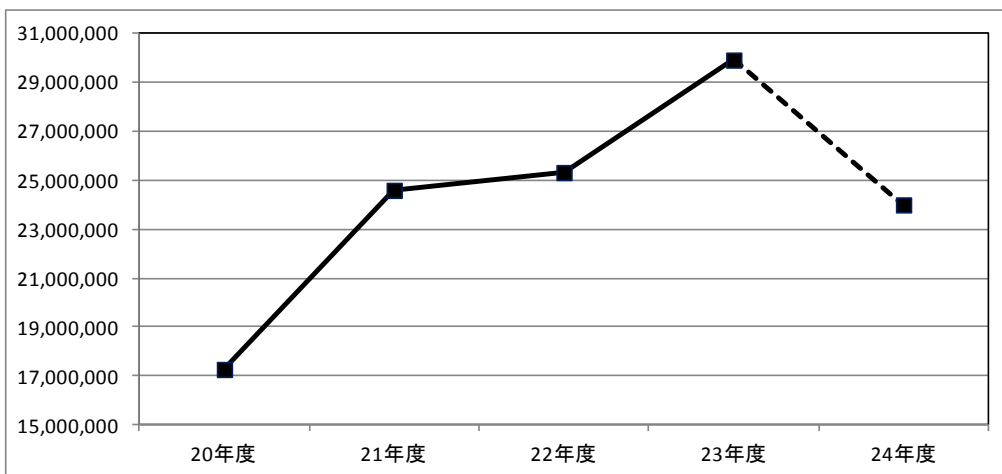
緑豊かな公園内の植栽管理は、公園内が明るく、きれいになったと利用者からも好評を得ており、今年度も更なるレベルアップを目指して整備を行う。

安全管理としては防災設備の法定点検や年 2 回の防災訓練を行い、財団職員はもとより関連する機関や委託会社の職員全員で、避難誘導・消火訓練に励み、非常事態に対応できるものとする。

【 修繕状況 】

※24 年度は見込値

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
修繕発生件数(件)	113	104	116	129	120
対前年度比	86.3%	92.0%	111.5%	111.2%	93.0%
修繕費(円)	17,266,555	24,594,145	25,322,627	29,923,555	24,000,000
対前年度比	69.6%	142.4%	103.0%	118.2%	80.2%



② 組織・運営体制

平成 25 年度は第二期指定管理者として最終年度である。過去 7 年間の指定管理者としての経験、ノウハウの蓄積は公社としての自信であり、新たに加わった市の文化行政に関する業務も市民ギャラリーの運営だけでなく、これからは文化の拠点に相応しい組織としてスタッフ全員の共通認識を持つことは、言うまでもない。また、市との連携をこれまで以上に行い日々の業務に取り組んで行く。

そのために、現在運用している「人事管理システム」¹及び「人事評価制度」²の効果的活用や職員研修を充実させ、財団職員全員の能力を向上させるとともに、組織力の強化を図る。このため、職員が安心して働けるように身分を安定したものとるように、法に基づいた労使協定を結ぶことに努めていく。

平成 25 年度からスタートする公益財団法人「宗像ユリックス」。これまで 25 年間という運営の経験を活かし、さらなるグレードアップを行い、財団・行政・市民とともに愛される「宗像ユリックス」を目指し、財団職員一丸となって業務に取り組む。

【 人員体制の推移 】

■人員体制の推移					
	21年度 (22年3月末)	22年度 (23年3月末)	23年度 (24年3月末)	24年度 (25年3月末)	25年度 (25年4月予定)
中核職員	6	6	6	6	6
(うち市派遣)	(3)	(2)	(2)	(2)	(2)
専任職員	3	3	3	3	3
嘱託職員	7	9	8	7	7
臨時職員	19	17	20	18	19
合計	35	35	37	34	35
特記事項	第1期指定管理 (4年目) ※最終年度 人事評価制度 本施行開始	第2期指定管理 (1年目) ※初年度	第2期指定管理 (2年目)	第2期指定管理 (3年目)	第2期指定管理 (4年目) ※最終年度 公益法人移行

¹ 財団職員を中心とする組織を目指し、平成 19 年 3 月策定。職位、待遇等について規定。

² 「宗像ユリックス人事評価制度」。平成 20 年度を試行期間とし、平成 21 年度より運用開始。

③ 財政運営

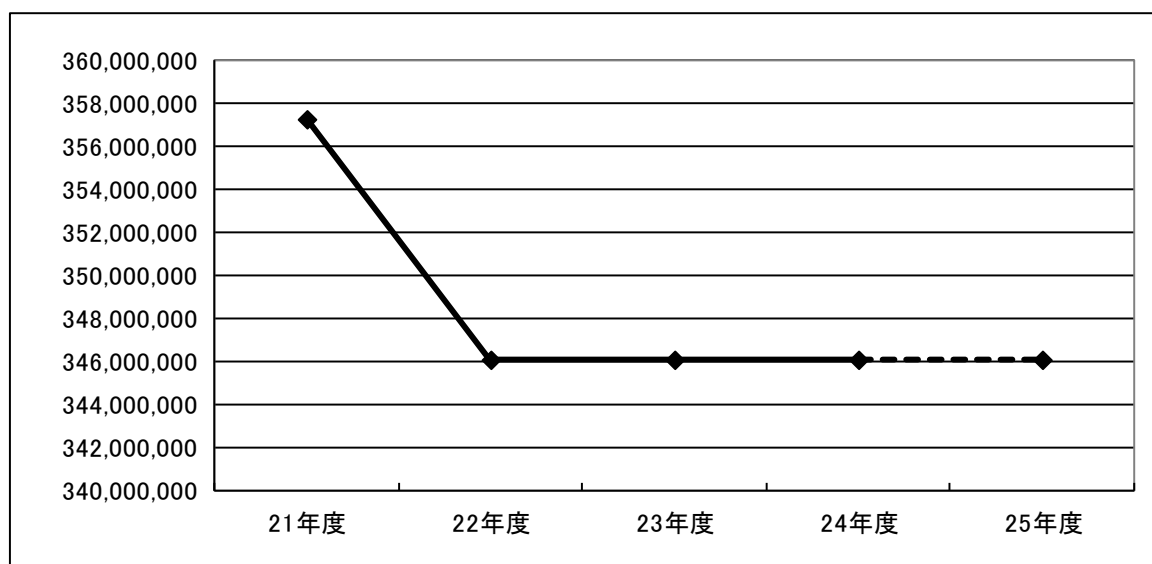
第二期指定管理の最終年度となる平成 25 年度は、「指定管理者として安定的な管理運営を遂行するため、中長期の財政状況を展望し、できる限り経常経費の圧縮、削減を進める」という従来の運営指針を引き続き堅持する。また、現在運用中の「新・公益法人会計方式」による予算科目・部門別及び宗像ユリックス全般の管理運営状況についてのデータ蓄積を活かした、財団ならではのフレキシブルな財政運営を行っていく。そのための「オフィシャル・パートナー制度」³や一昨年度から導入した、「オフィシャル・サポーター制度」を活用し、ユリックス倶楽部会員及び施設利用料の増加、各種販売事業による手数料収入増加等の独自財源の確保、各業務委託料の精査等、財務体質の改善を図っていく。

公益法人改革については、平成 25 年度からスタートし、新しい公益法人会計への移行も併せて実施して行く。

【 管理運営コストの推移 】

予算ベース	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
管理運営コスト	357,308,000	346,083,000	346,083,000	346,083,000	346,083,000
対前年削減額	0	11,225,000	0	0	0
対前年比	100.00%	96.86%	100.00%	100.00%	100.00%

※22年度より指定管理業務が2つに分割（北・南）となったが、管理運営コストは合計額を表記



³ 宗像地域の文化振興を目的とした支援制度。パートナー料は宗像ユリックスの文化事業（特に参加型・育成型事業）へ活用。平成 19 年 1 月 26 日、宗像医師会と協定を締結し、平成 23 年についても更新。